

平成22年度 第2回 福井県長寿医療運営懇話会

概要

日時 平成22年10月14日(木) 14:00~15:40
場所 福井県自治会館 6階 601会議室

- 1 会長挨拶(村上海長)
- 2 協議事項(1) 新たな高齢者医療制度について
(2) 健康診査事業について
- 3 その他(事務局) 次回は、「最終とりまとめ」後の来年2月ごろに開催。

協議事項に対する意見

新たな高齢者医療制度について

- ・75歳以上がすべて一律ではおかしいと思う。90歳以上は介護も医療も何もかも、掛金も費用負担もなしで余生を過ごせるような制度にならないか。
- ・医療費の増加は高齢者の増加が主要因ではない。医療の進歩で医療費が増えている。公費負担をあまり増やすのも財政上困難なので、高齢者の負担増もやむを得ない。

健康診査事業について

- ・75歳以上でなんら薬を飲んでいないという人はいない。一月に1度、二月に1度という具合に年間を通して医者にかかっている。そういう人は、健診の必要性を感じていないのだと思う。
- ・かかりつけのお医者さんの言うことと、健診の結果での食い違いがでると、トラブルの元になる。医療費のムダにもなる。
- ・人間ドックを受けている人に健診を受けさせるのはムダだし、人間ドックよりもっと詳しい検査がしたければ、癌ドックになる。どこまで詳しい検査を受けたいのかによって医療費のかかり方も全然違ってくるので、適切な本人の希望聴取が必要と思う。
- ・健康に無頓着で、体の具体が悪い人も多い。そういった人をいかに早く見つけて少数の医療費の投入で改善できるかが大切だと思う。今まで健診などをまったく受けていない人の健診率向上を考えて、そういった人の受診勧奨にお金を使った方がよいと思う。
- ・公民館などで2時間ほど受付していても、年寄り二人の世帯でその時間帯に行けるかという、会場までの足が確保できずに行かれない場合も出てくる。
- ・今の特定健診の項目では、内科の医者にかかっている人であれば、健診項目は全部検査している。むしろ、内科の医者にかかっている人は健診を受けているとカウントしたらどうか。
- ・老人保健の時代には、40歳以上が全部対象で通知を出していて、治療中であるとか、人間ドックを受けたなどのチェックをつければよいという返事の出し方があったと思う。後期高齢者医療でもそうしたらどうか。
- ・今の健診の受診率では、自分の体について情報を与えられている人が16%しかないということになる。医療機関で適切な指導を受けている人が実際はこれぐらいいるというのを、(括弧)書きでもデータを示したらどうか。そうすると安心度が違うと思う。